

歴史と文化

歴史上、多くの著名人が瓢箪に関心を持ち、文学や絵画、武具などの工芸品にその心を残しています。

神功皇后（古事記）、仁徳天皇（日本書紀）、清少納言（枕草子）、紫式部（源氏物語）、橘直幹（和漢朗詠集）、空也上人（鉢叩き）、菅原孝標女（更級日記）、織田信長、豊臣秀吉、久隅守景（夕顔棚納涼図）、松尾芭蕉（西山瓢）、如拙（瓢鮎図）、頼山陽（赤瓢箪）、板倉勝重（瓢箪公事）、富岡鉄斎（瓢中快適図）なども瓢箪を愛していたようです。

「瓢箪から駒」ということわざ、「瓢箪鯰」といった言葉があります。そして、瓢箪は種が多いことから「子孫繁栄」として重宝されています。無病（六個の瓢箪）息災、三（三個の瓢箪）拍子と言った語呂合わせで、その個数を飾ることで縁起物として扱われています。

※文書は全日本愛瓢会発行の「瓢箪の育種・栽培・工芸技術全集」から引用

